

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協ほっともとみや(1F)		
所在地	〒020ー0866 盛岡市本宮6丁目14-12		
自己評価作成日	令和6年12月15日	評価結果市町村受理日	令和7年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個々に応じた対応をし、団体生活での範囲内で、行動制限をしたくない。(出来る事、やりたい事を実践)・お花見、夏祭り、敬老会、忘年会等々季節に応じた行事へ参加する事で楽しい時間を共有している。 ・日常生活の中ではいつも笑顔があり、会話があり、笑いがある。 ・食事は手作りで、利用者様、スタッフ一緒に食事を楽しんでいる。 ・ほっともとみやが居場所となっている。 ・利用者様の体調や気分等により添い、安心して生活出来るように支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、盛岡市の西南部の住宅地に位置する2階建ての2ユニットである。周辺には市立病院や医院、介護施設などがあり、医療と福祉、介護との連携は既に出来上がっている。「和・輪・話を大切に毎日笑いのある楽しい生活を目指します」とする理念を掲げ、利用者一人ひとりの思いに応えようと取り組んでいる。重度化、看取りの対応においても、訪問診療、訪問看護と連携し多くの看取りを経験している。地域とのつながりも区長、民生児童委員、大家さん、地域の住民の皆さんとの協力関係ができており、災害対応訓練の協力も得ている。また、個人面談や職員アンケートを通じ、提案や要望、勤務状況、資格取得の希望等を把握し、職員の資質の向上やより充実した介護サービスの提供に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示している。今年度は2つの目標を立て取り組んでいる。 ・季節を感じる行事への参加。 ・個々の想いに寄り添う。 各イベント、行事に参加してもらい、時には悩み事等の相談相手になったり楽しく活気のある生活をしている。	開設当初からの理念『和・輪・話』を大切に毎日笑いのある楽しい生活を目指します。』を掲げ、利用者一人ひとりに寄り添いながら利用者の支援に取り組んでいる。今年は更に3ヵ月毎の目標を立て振り返りを行いながら、実践がより理念に沿ったものになることを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナがなかなか終息せず、施設内や外でも発生している中ではあるが、地域での花壇の整備や毎月の絵本読み聞かせや、各行事の際には沢山の方々のパフォーマンスを見せて頂くなど、交流は続けて頂いている。	町内会に加入し、回覧板も回って来ている。大家は地域に顔が広く、いろいろな面で協力を頂いている。地域のシェイクアウト訓練や、花壇の整備にも参加し、挨拶を交わすなど繋がりを持ちながら生活している。また月1回訪問する絵本の読み聞かせボランティアを受け入れる等、地域と日常的に交流を持ち続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来所の際に悩み事や、愚痴や相談を受けている。運営推進会議では、地域の方々の困りごとや参加された方々の悩みなどの相談を受けたりアドレスしたり、施設内の困りごと等の相談もしたりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1人暮らしの方で施設に入りたいとか、家族で認知症が進みその方の対応方法など。また、地域内でいたずらのような事が多発している事の防犯方法を話し合ったり、色々共有させてもらっている。	2ヵ月毎に参集で開催し、市の担当課を始め、町内会長、民生児童委員や利用者家族に委員になっていただき、時には利用者も出席している。会議では、事業所の取り組みや利用者の状況を報告し、委員からは地域の情報や感染症対策などについての助言や提案を頂き、サービスの質の向上に活かしている。	利用者代表を運営推進会議の委員として位置づけ、特定の利用者に固定することなく参加する方法について検討されることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、市の担当者と連携している。	市からはメールや電話で行政情報を得ているが、市の担当課職員が運営推進会議に参加している事もあり、その場で情報や助言、指導を頂いている。生活保護受給者への支援、要介護認定申請、外部評価報告書提出などの際には、直接担当課に出向き相談するなど、協力関係を築いている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。定期的に身体拘束廃止委員会を開催し意識付けし、言葉や、威圧等についても注意し合っている。玄関の施錠もしていない。	3ヵ月毎に身体拘束廃止委員会と虐待防止の委員会を開催し、身体拘束や虐待の防止等に取り組んでいる。また、スピーチロックを含めたテーマの勉強会やミーティング検討会を年に7回程度実施し職員間で理解を深めている。特にスピーチロックについては、気づいた時にはその場お互いで注意し合っている。家族の了解のもと、2名の利用者が転倒予防のために足元センサーを使用している。玄関の施錠は、防犯のため夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の際に一緒に行っている。(カンファレンスや、全体ミーティング等で)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で理解している。過去には成年後見制度を利用している方が数名いらっしゃったが、今はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず説明し理解や納得していただいた上で入所していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食べ物の希望、外出の希望等には、答えるようにしている。 ・全居室にエアコンを取り付けてもらった。	家族からの意見や要望は、面会時や通院同行で来所された際に伺うようにしている。要望や意見などで大事なものは、職員会議で話し合い職員間で共有している。定期に発行しているほっともとみや通信「和・笑・輪」は、利用者の日常が分かったと家族に好評である。利用者からは食べ物や外出の希望が多くあり、出来る限り対応している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：岩手高齢協ほっともとみや(1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員不足のため募集しているがなかなか解消されていない。	日々の業務の中やカンファレンス、全体ミーティングの機会や職員アンケートを通じ、職員個々の意見や要望、困っている事、不安等を把握し、必要と思われる案件については、本部に上げている。事業所の業務については、職員間で話し合いサービスの向上に努めている。管理者との個人面談を年1回実施し、個人的に会話できる関係作りをしている。資格取得のための研修は、有給対応としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足が続きなかなか条件は厳しくはなっているが出来る限り、働きやすい環境に努めている。(土日祝休み、夜勤無等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモート研修が増加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護施設と交流し、それぞれの特徴を生かしお互いに今後も交流を深めようと継続している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面会し、利用者様やご家族様と話し合っている。入居して間もない方で帰宅要求が強い方にはご家族に協力を得、一緒に過ごす時間を大切に、本人に安心してもらうように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から入居後も情報を共有し、面会時には施設内での様子を報告したり変化時等には、すぐ連絡し、対応方法等を聞いたりしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と離れる事で不安で不穏になる方には面会や外出・外泊等で安心してもらえるよう対応している。(提供された情報とは違うことが多い。てんかん発作の対応方法など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛けや見守りをしながら、出来る事をやってもらったり、一緒に行っている。(下膳、掃除、テーブル拭き、洗濯干し、洗濯たたみなど)施設内では、お互いに協力し合って生活する場所である事を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入れてしまうとどうしても会わない時間が増えてしまうため受診時はご家族様にお願いしている。中には、親子関係が悪く受診も会いたくないと話されていたが、時間をかけ徐々に親に対する気持ちや和らぎ、良くなっていった例があった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や家族と外出やお墓参り、外食したりしている。受診したり、自宅に戻り、一緒に食事をしたりするご家族様もいる。(愛犬に会ってくる)	利用者の高齢化により近所の方や友達、馴染みの方で訪れる人は殆どいなくなっている。利用者は病院受診時に家族と外食をしたり、自宅に戻って食事をしたり、家族と一緒に墓参りをしている。ボランティアで毎月1回来所する絵本の読み聞かせの方や、2、3か月おきに来所する美容師が馴染みとなっており、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が弾むように、スタッフが間に入り良い関係づくりしている。お互いを気遣う事ができており利用者同士の関係は良いと思う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前(10年程前の方)入居されていたご家族様から連絡があり大量のタオルを提供して頂いた。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室で過ごしたい方、リビングで過ごしたい方などそれぞれが自由に過ごす事ができる。日々の会話の中から思いを聞いたり、表情やしぐさで汲み取り、対応している。(カンファレンス等で話し合い共有し、対応している)	日々の会話の中から思いや希望を聞き取り、叶えるために職員間で話し合い、希望に添えるよう努めている。2階には重症化し、思いを話せなかったり、伝えられない方が多い事もあり、表情やしぐさから意向等を汲み取って支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室には馴染みの物を置くことができる。ご家族やケアマネ等より情報提供いただいている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送りを確認し対応を共有している。起床・就寝時間や過ごされる場所などはそれぞれの方に合わせている。体調等変化があった場合には、訪問看護に連絡し指示をもらい対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を3ヶ月に1度のカンファレンスで見直しや継続の検討をし、今、必要とされる介護計画を作成している。	居室担当制は取らず、職員全員で利用者をモニタリングし、3ヵ月毎の見直しの際にカンファレンスを行っている。介護計画は、医療関係者や家族の意見等も加味し、計画作成担当者が作成している。介護度の変更や体調が変化した際には、改めて計画を見直している。作成後は、利用者に説明し家族には面会時や病院受診で来所した際に確認を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チャートや申し送りノートを利用し共有している。カンファレンスで見直しし、実践している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	花に水やり、外に出たい等にはお願いしたり、散歩に出掛けたり不満にならない様にしている。受診時、ご家族様が対応出来ない場合はスタッフが支援している。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容、絵本読み聞かせ、スコープ三味線、中川愛子社中等、沢山の方々のご支援をいただき楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の協力のもとかかりつけ医を受診していただいている。かかりつけ医の訪問診療もお願いしている。受診の際は日頃の情報やバイタルチェック表をお渡ししている。	かかりつけ医の受診は、家族が付き添いバイタルチェック表を持参している。また適切な治療が受けられるよう、事業所から事前に医療機関に生活状況を説明している。家族が付き添い出来ないため、かかりつけ医受診から月2回の訪問診療に切り替えた利用者も多い。訪問看護ステーションの看護師が週1回、月曜日に来所した際に情報提供と助言を得る事ができ、職員は安心して業務に従事している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時には詳しく情報提供時には指示をいただいている。こちらの情報は医師にも共有している。特変時にもすぐに対応し、指示をいただいている。(24時間対応)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	通院されている方の症状が悪化し、入院した際、症状が落ち着き退院する際に、訪問診療に切り替えてもらい安心して退院する事が出来るよう準備し行った。緊急時の連携病院が市立病院になり、スタッフもご家族様も安心している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方を伺い、ホームでの看取りを希望された場合には、ホームで出来る事、出来ない事を説明し、医師、訪問看護と連携しながら支援している。今年度は1名の看取りを行った。	入居の際に看取りについて説明している。事業所での看取りを希望する場合には、出来る事、出来ない事を説明し、医師、訪問看護師と連携しながら対応している。職員は、勉強や研修を積みながらこれまでに20名余りの看取りを経験し、現在1名の看取りに取り組んでいる。早い段階から家族と話し合いをし、家族の希望に添いながら、利用者本人にとって1番良い方法を選択して支援している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には訪問看護に連絡し対応していただき、指示を受けている。訪問看護ではなく直接ご家族様に対応するという方もいる(てんかん症状の方)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、水害を想定し1階から2階への垂直避難を行った。シェイクアウトも参加し行っているが、テーブルの下に入れる方は誰も居なかったため、別の方法を取り入れようと考えている。	年2回避難訓練を計画し、7月に水害を想定した訓練を実施した際には、市の指導で2階への垂直避難とした。9月には市全体で実施するシェイクアウト訓練にも参加している。2月には夜間想定で、2階からの出火を想定した避難訓練を計画している。冬場の訓練ということもあり、避難の仕方、方法を検討中としている。避難訓練の際には、大家、近隣の方々に協力を頂いている。	夜間想定訓練では、出来るだけ暮色時の時間帯に実施し、避難を通じて照明、利用者の服装、履物等の課題を抽出し、職員で話し合いを持ち「安全と安心」に向けてその解消に取り組まれる事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合わせた言葉かけや対応している。失禁などは、周囲の方に配慮し対応している。レク等でどうすれば良いか分からない方については隣にいて、不安にならないよう声掛けなど行っている。	利用者は全員さん付けとしながら利用者一人一人に合わせた言葉掛けを行っている。特にプライバシーの尊重、個々の尊厳を守る事の大切さを全職員が認識して支援に努めている。また、トイレ、入浴時の羞恥心には特に配慮に努め、レクの際に自身の行動に不安を感じている方には側について声掛けをしながら、安心感を持って過ごしていただけるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を行う場合でも参加、不参加に関わらず必ず声掛けし決定していただいている。本人から希望があった場合は、実行できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や水補の時間は決まっているが、レクや掃除等は希望にそって行っている。日々の体調やその時の思い等に合わせ、リビングで過ごしたり、居室で過ごしていただいている。居室で休む方については休みすぎないよう配慮している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感の分からない方が多いので、季節に合った衣類をあらかじめ準備し、その中から自由に選べるようにしている。重ね着する方も多いのでアドバイスしながら快適に過ごせるようにしている。定期的な訪問美容、爪切り、髭剃りなど。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オープンキッチンなので作っている時の音や香りで食事になるまでの時間を楽しんでもらっている。食事のリクエストなども取り入れている。テーブル拭き、下膳などできる事も一緒に行っている。	献立は職員が交代で作成し調理している。食材は買い出しやスーパーからの配達を利用している。日々の生活の中で、利用者に食べたい物の希望を聞き、メニューに取り入れ、誕生会は誕生者の食べたいものを提供している。行事食として、夏祭りにはバイキング、敬老会には手作りの豪華弁当、年越しにはお寿司、お正月にはお雑煮(餅を小さくしたもの)を提供し、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜は毎日摂取し、バランスの取れた食事を提供している。ミキサー食、トロミ食など、その方の症状に合った提供をしている。水分補給については、3度の食事の他、10時、15時もあり摂取量が少ない時には声掛けし摂っていただいている。生卵、半熟卵が苦手な方には火を通して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、声掛けや介助をしている。口腔ケアの拒否がとて強い方には、食後にお茶や水で口の中に食べ物が残らない様に心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	寝たきりの方以外は、なるべくトイレでの排泄を促している。介助が必要な方、失敗した場合などでも安心できるようにさりげなく介助している。	利用者の排泄パターンをチェックし、寝たきり以外の方はトイレ排泄を促し、誘導を行っている。誘導も言葉を選び、さりげない声掛けを心掛けている。1階では布パンツの方は1名、他の方はパット併用のリハビリパンツやオムツを使用し、人工肛門を付けている1名が夜間のみホータブルを使用している。2階はリハビリパンツ又はオムツを使用し、3名が夜間ホータブルを使用している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：岩手高齢協ほっともとみや(1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物の他に水分量も把握し足りない方には声掛けしている。野菜嫌いの方には、少しでもいいから食べてもらえるように声掛けしている。又、熱を通して食べやすいよう提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な範囲で無理強いせず入浴してもらっている。拒否の強い方については変更したりしている。温度はその方に合わせている。	週2、3回の入浴となっている。入浴を嫌がる場合には無理強いをせず、変更したりして柔軟に対応している。重症の方には2人対応で入浴していただいている。入浴は、利用者にとって寛げる時間であり、職員とのコミュニケーションの取れる場にもなっている。入浴剤を入れたり、季節に合わせて柚子湯にするなど、楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠に影響のない程度の昼寝をする方のいるが比較的眠られている。日中はラジオ体操や手伝いなどで体を動かしてもらい夜は眠れるようにしている。寝具などは定期的に洗濯し気持ちよく眠っていただくようにしている。夜間は、スタッフがいつでも起きる事を伝え、安心してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をわかりやすい所にファイルしている。不明な点は契約薬局から説明やアドバイスをもらっている。薬の変更の時にはチャート等に記入し、申し送りで皆が理解できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	仕事を頼まれる事で喜びを感じる方には出来る事をお願いし生活に張りを持ってもらっている。掃除(モップ掛け)は皆様がやってくれる。新聞は順番に読んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染し面会できない時期もあったが家族が可能な方についてはお墓参りや、外食、外泊、家族とドライブ等支援していただいている。	天気の良い日に日向ぼっこをしたり、市からマリーゴールドの鉢植えをいただき、オレンジガーデンとして水やりを日課として戸外に出て外気浴で楽しんでいる。春には県立美術館の桜を見学したり、大家さんの八重桜を見に出かけている。日々の生活の中で、近隣の衣類量販店に買い物に出かけたりしている。家族の協力を得てお墓参り、外食、ドライブなどを楽しんでいただいている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協ほっともとみや(1F)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は1名いらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話を利用できる方はいないのでスタッフが間に入りご家族様と話している。定期的に母に日、敬老の日など、お花やお祝い品が届く方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除で清潔を保っている。季節に合わせた壁飾りの制作し(一緒に行ったり)展示している。とても落ち着いて、のんびり過ごされている。	大家の協力により全居室にエアコンが設置され、快適に過ごせるようになっている。1階のリビングには、テーブル、ソファ、テレビ等があり、2階は天窓になっている。どちらも室内は明るく、壁には職員と利用者が一緒に製作した絵や、季節を感じさせられる「みずき団子」が1、2階共に飾られている。利用者は思い思いの場所で寛ぎながら時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや食席、本棚の前、居室など、時にはみんなで、時にはひとりでと、テレビを観たり本を読んだり、会話したりと、自由に過ごされている。時々、テーブルや、ソファの位置を変え雰囲気を変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にエアコンを設置してもらった。自宅で使用していた寝具をご主人が使っていたものだと話されている方がいる。入居時、馴染みの物を持って来ていただき、飾ったりしていたが、ポケットに詰め込んで持ち歩いたり、床に投げつけ壊したりしたので自宅にお返しした例もある。	ベッド、クローゼット、棚、蓄熱暖房、エアコンが設置され、室温は適温に保たれている。テレビ、タンス、家族写真などの使い馴染んだものを持ち込み、利用者の意向に添った配置の居室になっている。居室の表示は、個人名、花の名前等、希望に添ったものになっており、寝たきりの方の居室には、中が見えないよう長い暖簾が下げられ、プライバシーが保たれるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時の動線に物を置かないようにして、車椅子や、歩行器などを使用しても自分で自由に行動が出来るよう配慮している。介護しすぎないようにも注意している。		